鶴壽百人一首

全

壽百人一首

文 堂板

山色赤人
田子の浦
うち出
みれば
白妙の
富士の高嶺に
雪は降つつ
中納言家持
海持中納言敦忠

源宗于朝臣
猿丸太夫
奥山の
おどろの
みち
ふみわけ
なく
鹿の
こえきく
秋は
かなしき

中納言家持

安倍仲麿

我慢法師

小野小町

禪丸

俵正遍昭

参議賀
和田のたろう
半蔵
みつ
くだ出
ぬと
人をたぶる
ばかりの作り物

陽成院
たくさんの
巻より
おつる
足が乃川
恋ぞつもりて
淵となりぬる

河原左大臣

光孝天皇

堂
常夏
蒲公英
侍物

元良親王
御幸
蘭

紀貫之
素性法師
今来むと
いひしばかりに
長月の
有明の月を
まちいでつるかな

神順
須磨

明石
須磨
塗笠

関屋
絵合
松風
菅家

海雲
初瀬
乙女
三條右大臣

中納言兼輔
見わたせば
春
なるる
いづみ川
はなさきそめ
ぬるかな

夏
信公
小倉山
ふるの
みち
紫
ひろ
今
ぞ
幸
さかん

夕顔
芋葉
源宗于朝臣
山ざとは
冬ぞ
さびし
淋さ
まる
人めも
草も
かれぬと
おもへば

横佳
蓼
藤豆葉
凡河内躬恒
心あてに
折らばや
折らん
白きくの
花

若葉上
柏木

横笛
夕霧

御法
幻
白宮
春乃到枝
山河ふ風乃
うけ
る
ちぐら
うへ
なびまつも
仙家
なるろう

紅梅
竹川
橘女
紀友則
久かたの
ひかり
のどけ
き春乃日に
寿ひさく
もの
かな

椎午
総角
早蕨
篇目興風
雅とうそ
しる
人に
きむ
高砂の
松もむかしの
友なくて

宿木
東屋
浮舟
紀貫之
人さいさ
名を
ちぐ
ふるさと
花ぞむかし
香にほひける

清原深養父
夏の夜は
まだ宵なから
明けぬると
雲のいづこに
月やとるらむ

百人一首絵様
文屋朝康
白つゆに
風の吹しく
秋の野に
しらたまぬけ
散るかね
陽成院

右近
人乃命の
あるゝ

参議等
あさぢ姫の
をのく
ものの
ふる
ものとて
人乃こひき

平面盛
志のぶれど
いろに
出み
とゞ
恋ハ
物やおもふと
人のとゝまで

壬生忠見
あひすてふ
我名は
まだ
世にも
人しれぬ
わがひとあしに

清原元輔

中納言敦忠

儀同三司母

大納言公任

紫式部
みしやこそ
わうねの
雲まより
夜ふかの
月の
邪

和泉式部
あくがれむ
あの世の
やうすを
ちひで出
今てそひの
あふこもの
この邪

小武郎門侍
大江山
いくのの道の
遠くまたふみも
あまのはしだて

俳諧大鼎
いかの海乃
秋の風
八重桜
ぬるゝ秋

三條院

婚姻武法の祈
能因法師

良運法師
さびしさの
ゆゑ成
きもち
いづく
なぐむ
まぶ
いづくを
ねぐら
秋はゆふ暮

大網言經信
ゆふされば
かど田乃
稲葉
おとづれて
芦のまろ屋
秋風ぞふく

源後頼朝卿

義原基俊

後德大寺左大臣

道因法師
なりひらも
さてを
命を
あるめを
うきかをぬ
なるべき

皇太后宮大夫俊成
世の中よ
なれ
いる
山のかくれも
森でなるかな

俊恵法師
夜もすがら
ものぞ
こころい
ぼのぐで
関のひま
さえ
ぬれぬ
うめく

蔵人清輔朝臣
なげ〳〵
まぐ
ひろ
や
ものぞ
ぬれ
うし
と見
世ぞ
今も
こひし
き

寂蓮法師
むら雨の
露もまだ
干ぬ
槙の
葉よ
霧まもる
秋のゆふ暮

西行法師
なげけとて
月やは
ものを
思はする
かこちがほ
なる
我なみだ
かな

紙弧式法
紙折敷之圖
奥紙作之
あんのかしつゝみ
敷のかた

本の紙包
中の紙包
番傘
白袋
後家振袖
きりぐす
累夜叉
しらむ
海よ
衣ぬ
ひらの
あの
四十六

あんの枝の
紙包
日枝のつ
笠形つ
第一枝
うつ
ぬ
ぬ
ぬ
海士
見せ
殿門院大納言

紙刀
安城
腹巻
裏袋
胡桃の形包
沖の石乃
我袖
二條殿御

紙つゝみ
塩包
左右開
袴
源義右大臣
世乃中
左右
なるか
なるぞ
さゝらぐ
海の月
山の月
の
左右
しる

墨
硯
筆
紙
茶碗山高家
あわもあれども
清者の
民にあわよ
我身うれ
すこぶる祝

雄蝶
女蝶
兼義雅俗
人の
聞山
知
知
ものて
胸
さらふく
衣うつなり

結束結揚之事
叶むすび
思むすび
桐生むすび

淡路むすび
総角むすび
親等むすび

文政康孝乃
秋の景色の
月風を
賞とりたるん
僧正遍照
西三位家隆

小野小町
人丸の中社
大伴黒主
後撰院

1001975406

明治貳拾九年十二月十日　求版
仝　四拾年　六月十五日　再版

發行所　文昌堂　淺見鉦太郎
名古屋市門前町三丁目六番地

發行所　文林堂　淺見文吉
東京市日本橋區大傳馬町壱番地

淺見